

荒子観音かいわい散策

「和やか瑞穂」10月8日（木）

秋らしい天候の中、おなみ線荒子駅に集合 25 名の方が参加。

3 名のボランティアガイドにより、散策スタートです。



本日の散策コース

前田 利家(まえだ としいえ) 百万石への道

犬千代ルート

前田 利家（まえだ としいえ）は、戦国時代から安土桃山時代にかけての武将・大名。加賀藩主・前田氏の祖。豊臣政権の五大老の一人。俗に「加賀百万石の祖」とも称される。

尾張国海東郡荒子村（現・名古屋市中川区荒子）の荒子城主前田利春（利昌とも）の四男。はじめ小姓として 14 歳のころに織田信長に仕え、青年時代は赤母衣衆として従軍し、槍の名手であったため「槍の又左」の異名を持った。その後柴田勝家の与力として、北陸方面部隊の一員として各地を転戦し、能登一国 23 万石を拝領し大名となる。

信長が本能寺の変により明智光秀に討たれると、はじめ柴田勝家に付くが、後に羽柴秀吉に臣従した。以後、豊臣家の宿老として秀吉の天下平定事業に従軍し、加賀国・越中国を与えられ加賀藩百万石の礎を築く。また、豊臣政権五大老に列せられ、豊臣秀頼の傳役（後見人）を任じられる。秀吉の死後、対立が顕在化する武断派と文治派の争いに仲裁役として働き、覇権奪取のため横行する徳川家康の牽制に尽力するが、秀吉の死の 8 か月後に病死した。





駅前にある、利家とまつ銅像

地元有志により平成 19 年に利家の初陣像が、5 年後にまつ像建立された。
新たな町のシンボルになっている。

次は荒子観音寺・・・・・・・・

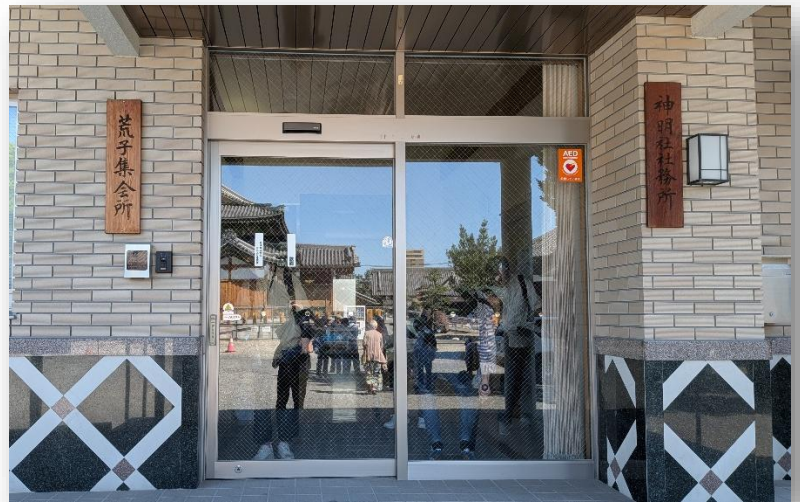


荒子観音寺へ寄る前に

荒子集会所へ立ち寄り

この日は運良く管理人がお見えになり、中に入ることが出来、「荒子の馬道具（ばどん）」を拝見出来ました。

戦後の屋敷に残されていた 7 頭の馬道具の内、「大中脇屋敷馬道具」が、この集会所に保管されています。





荒子観音寺

天平元年（729）泰澄大師の開基

荒子観音寺は、尾張四観音の一つです。多宝塔は市内最古の木造建築物で、国の重要文化財に指定されています。荒子城主・前田家の菩提寺で、前田利家が越前に移るときに本堂を再建したと言われています。山門の二体の仁王像は円空の作で、他に 1200 体余の円空仏を所蔵し、毎月第二土曜日の午後 1 時から 4 時に一般公開されています。



荒子城址

富士権現天満宮

前田利家が居城した荒子城跡に設立されています。

荒子城は利家の父利昌によって天文年間（1532～1555）に築城され、堀の囲まれたおよそ東西68m 南北50mの小規模な館のような城でした。富士権現の祭神は木花開耶姫命と前田氏が先祖としている菅原道真です。前田氏は城の陳守神としてこの神社を勧請しました。

最後は荒子観音寺へ戻り解散・・・参加の皆様有難う御座いました。